

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すいっち		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者の気持ちに寄り添った支援を行っていること。	子どもの気持ちを尊重し、集団活動への不安が強い場合は、無理強いしない。まずはルール説明だけをみんなと一緒に聞き、他児が取り組む様子を見学し、やってみたい気持ちになったら参加する等、スモールステップで活動の参加へ繋げている。拒否が強い時は、個別活動に切り替えるなど、子どもの気持ちに寄り添い、無理なく取り組めることから行っている。	子どもの興味があることを活動に取り入れて、楽しみながら学べる機会を増やしていく。現在取り組んでいる作業療法や、就労を見据えた作業などの個別活動を今後も増やし、子どもの自信に繋がるような取り組みを充実していく。現在も保護者とLINE等で情報共有を行っており、今後もさらに共有した情報を支援に活かしていく。
2	アスレチック教室・事業所内に運動器具を設置・不登校支援等、ストレスを発散できるような取り組みを行っていること。	土曜日に外部から運動専門のトレーナーを招き、アスレチック教室を開催している。事業所内にボルダリングの設備があり、楽しみながら体を動かしてストレス発散に繋げている。また、不登校の子どもを受け入れ、自宅以外にも安心できる居場所を提供している。会話や遊び等を通じてストレスの発散に繋げている。	アスレチック教室で学校の体育種目に合わせた指導を取り入れ、バスケットや鉄棒等を実施し、体の上手な動かし方を学び、自信に繋げて学校生活でも活かせるよう取り組んでいく。
3	利用児の男女比や学年に大きな偏りがなく、子どもがコミュニケーションの練習相手を見つけやすい環境が整っている。	子ども同士の相性を考え、利用曜日を調整している。利用を案内する際「同世代・同性とのコミュニケーションを練習したい。」という保護者の要望があった場合は、仲良くなれそうな子どもが利用している曜日を案内している。	子供の興味を把握し、同じ興味を持つ子とのコミュニケーションが活発になる様、職員が間に入ってきっかけを作る等の取り組みを今後も進めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	タイミングによって、満員で固定の曜日で利用を承ることができない場合があること。空きができるまでキャンセル待ちのご利用となってしまう場合があること。	新規の利用希望や利用日数を増やしたい、という子ども・保護者が増えている。	求める療育の方向性を保護者と確認し、ニーズに合う姉妹事業所を案内するよう取り組んでいく。
2	他害の度合いによって受け入れが難しい場合があること。	ワンフロアの事業所であり、他児の安全を確保するのが難しい場合に受け入れが難しい。	今後事業所を新設する場合は、受け入れができるような間取りを検討していく。
3	医療を必要とする子どもの受け入れができないこと。	看護師等医療行為に対応できる職員がいない。	必要に応じて検討する。